

共創の場形成支援プログラム 令和4年度次世代を担う人材育成支援 選定結果

| 分野 (採択・昇格年度) | 拠点名称 | 代表機関 | 実施概要 |
|-------------------------------|---|--------|--|
| 共創分野 (令和4年度昇格) | フォトニクス生命工学研究開発拠点 | 大阪大学 | 未来社会における未知の課題を解決できる「知と技術」とを創造できる人材として、異分野融合人材、産学融合人材の育成を目標とした研究開発プログラムと、その支援体制を共創の場拠点内に構築する。若手研究者発案による異分野研究者との共同研究プロジェクトを推進し、その過程で複数分野の知識と技術を蓄積した創造的な研究者を育む。加えて、最先端科学と企業経営を理解する産学融合人材の育成により、研究成果のすみやかな社会実装を可能とする。また、これらの活動を継続できる人材交流の仕組みを構築し、研究者の意識改革、人材の流動性向上、キャリアパス改善を進め、持続的な創造的研究拠点の基盤となる人材エコシステムの構築を目指す。 |
| 共創分野 (令和4年度昇格) | 資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点 | 琉球大学 | 本プロジェクトは一次産業の問題を農業と水産業の垣根をとりさった新産業で解決し、若者が主役となって食を育て提供する循環社会を実現することを目指している。本プロジェクトが掲げる目標を本格型に昇格後に進めている様々な連携を確実に進めることで達成する。すなわち、新たに設置する「ライジングスター育成支援プログラム運営委員会」の下で (1) 若手研究者を中心とした挑戦的研究の支援、(2) 若手人材のキャリアパス、そして (3) 流動性の確保やグローバルな競争力の重要性の観点から、若手が主体的に取り組み研究課題を抽出・選考して研究を進めるとともに、研究の進捗への助言や業務軽減等のバックアップ体制を整える。 |
| 共創分野 (令和3年度採択) | 誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルソコムズ共創拠点 | 慶應義塾大学 | 本拠点では都市において孤立しがちな「高齢者」や「後病者（医療機関での治療を終えて退院した人）」の困り事や病気の再発に着目し、自分らしさを守りながら問題を解決ができるように支援する「寄り添いサービス」を様々なセンシング技術や新たなAI解析、アルゴリズムを活用し「信頼できる知」として構築を目指している。 本人材育成プログラムでは、「医療AIデザインプログラム」を実施し、全国の学部生、大学院生、ポスドク等に対してAI・データサイエンスの体験から研究課題までの実践、デザイン思考、社会実装教育、企業を含む多様なステークとの共創を学び、実践を行う。持続的コモンズ社会に向けた人材の育成、循環を目指す。 |
| 共創分野 (令和3年度採択) | 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 | 金沢大学 | 本拠点では、イオン液体を用いて、多様な性質のセルロース樹脂をリデザインし、分子レベルでリサイクル可能なセルロース樹脂を開発している。更に、天然多糖類とバクテリアセルロースナノファイバーを用いた複合材料の開発も進めている。リデザインを迅速化するために、2023年に高分子インフォマティクス・機械学習を課題として新設した。 セルロース樹脂、複合材料のデザインを加速させるために、支援タイプIで、高分子インフォマティクス、イオン液体、分子シミュレーション、分子動力学計算を習得した若手研究者の育成を推進し、支援タイプIIで、同分野の若手研究者を米国のカーネギーメロン大学などに派遣し、交流を進める関係を構築する。 |
| 共創分野 (令和2年度採択) | 地域気象データと先端学術による戦略的 社会共創拠点 | 東京大学 | 本拠点では、日本域気象再解析のデータ整備とその利活用を推進する産学官共創システムを構築する。自立・持続的な拠点運営を目指し、有望な若手人材の発掘・育成、国内外研究機関・企業・自治体等との連携を強化する。 支援タイプIでは、気象ビッグデータをAI・機械学習を用いて解析するテーマの推進や、再エネ発電予測コンテストを実施しその成績優秀者を拠点メンバーに追加する等を提案する。支援タイプIIでは、数値予報技術等により基盤的気象データを作成する側とそのデータを様々な社会活動に活用する側との「対話」のために、国内外の研究集会等への参加機会を若手人材に向け支援する。 |
| 地域共創分野 (令和3年度採択) | こころとカラダのライフデザイン 共創拠点 | 北海道大学 | 拠点ビジョン「他者とともに、自分らしく幸せに生きる社会」の実現には、激しく変化する社会の姿を捉え、自らの発想で新たな価値や事業を創造し、地域をリードする人材が必要である。支援タイプIでは若手リーダーによる研究を支援する若手研究ファンドを拠点全体、拠点外に拡大する。ファンドの企画・運営自体も若手が担う。支援タイプIIでは、少子化を課題とする韓国、台湾とともに調査研究を行い、少子化国際会議を企画・実施する。また、ビジョン実現に必要なハートフルネス人材を育成する。戦略企画を担うプロデューサーと、構想を受け止め自ら推進する研究者を育成し、地域課題解決事業を立案し継続的に推進できる体制を構築していく。 |
| 地域共創分野 (令和3年度採択) | 「流域治水を核とした復興を起点とする 持続社会」地域共創拠点 | 熊本県立大学 | 本地域共創拠点は地域課題解決のために複数の学術による総合知を活用し、ステークホルダーとともに社会実装を通して社会変革を図るプログラムである。本事業は、総合研究を支えることができる高い専門知と豊かな総合知を有する次世代人材の育成を目的とする。 PIと研究課題リーダーからなる次世代育成チームを構築し、国際ジャーナル執筆経費、海外発表経費、研究補助経費などの資金的支援、海外連携に伴う手続等の支援、研究能力を高めるためのメンター設置、専門知、総合知を高めるためのコロキウム（高度なゼミナール）を中心とした学習システムの構築を行う。研究テーマとして自然科学系、人文科学系、文理融合系、社会実装系の4つのカテゴリーに対して公募を行いテーマを設定する。 |
| 政策重点分野/ バイオ分野 (令和2年度採択) | つくば型デジタルバイオエコノミー 社会形成の国際拠点 | 筑波大学 | 拠点の維持・発展には、デジタルバイオ技術を駆使する研究人材や目利き力のあるマネジメント人材の育成が必要となるため、参加機関、企業、大学院学生などの多様な若手人材に対し、メンター制の拡充、コンソーシアムやAIラボの活用などの適切な育成方法を講じ、将来デジタルバイオ分野における先鋭的な研究及び研究マネジメント力を発揮する人材の育成体制を整備する。 (支援タイプI) 国際拠点としての研究開発活動の推進には、若手研究者自身が海外拠点及び海外企業等の開拓を通じた研究開発活動が重要なため、PIの相互派遣など海外研究機関と連携した若手研究者の海外活動を支援し、若手研究者の国際性を発揚する。(支援タイプII) |